

平成18年12月8日

鳥インフルエンザについて  
学生・教職員 各位

保健管理センター

鳥インフルエンザについて（注意喚起）  
—海外へ旅行あるいは帰省する教職員及び学生へ—

今年も、高病原性鳥インフルエンザ（A型H5N1、以下H5N1と略）の人への感染例が海外で報告され、増加する傾向にあります。鳥インフルエンザの学内への持込みと感染拡大を未然に防止するため、保健管理センターでは、全国保健管理施設協議会の感染症に関する最新情報をもとに、農工大版注意喚起を作成しアナウンスいたします。

緊急性の高いものについては今後も随時、皆様に情報を提供して行きたいと思っています。

H5N1感染が確認されている地域への立ち入りは自粛しましょう。やむを得ず感染が確認されている地域に旅行あるいは帰省する職員及び学生の方は、次の点にご留意ください。

**出国前にご注意いただくこと**

1. 旅行あるいは帰省することを上司や指導（担任）教員に必ず伝えること。
2. インフルエンザワクチン未接種の方は、同時感染を防ぐため、渡航の少なくとも2週間前までに、インフルエンザワクチン接種を受けて下さい 1。（ただし、インフルエンザワクチンは鳥インフルエンザを直接予防するものではありません）
  - 1 近隣の医療機関はHPをご参考下さい。（<http://www.tuat.ac.jp/~health/hospital.html>）

**これらの地域にてご注意いただくこと**

1. 可能な限り家禽類や野鳥（鶏、七面鳥、あひる、鴨、白鳥など）との接触をさけること（羽根、糞、十分加熱してない肉や卵も含む）。
2. H5N1感染疑いのある患者との接触をさけること。

**日本帰国後にご注意いただくこと**

1. 帰国後あるいは帰国後1週間以内に「咳」や「38度以上の発熱」がある場合には、職場あるいは大学に来る前に、必ず医療機関を受診すること 2。（学生はできるだけ、下記4.によることが望ましい。）
2. 医療機関を受診するときには、夜間帯は避け、日中の診療時間内に受診すること。受診の際には、「事前に電話連絡」をし「マスクを着用」すること。

2 受診可能な医療機関を知るには、近隣の保健所にまず連絡してください。

東京都保健所一覧参照 (<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/hoken/shisetu/tohc.html>)

平日AM9時～PM5時；当該保健所に連絡。日曜・祭日・夜間は東京都医療機関

サービス案内『ひまわり』(<http://www.himawari.metro.tokyo.jp/qq/qq13tomnlt.asp>)に連絡。

3. 上記1.にあてはまる場合は、必ず上司や指導（担任）教員に電話で連絡をすること。

4. 特に学生については、帰国後あるいは帰国後1週間以内に「咳」や「38度以上の発熱」がある場合には、保健管理センターに電話連絡すること。また、同時に指導（担任）教員にもそのことを電話で連絡すること。
5. 教員は、学生から上記の報告を受けた場合、直ちに保健管理センターへ連絡すること。

**連絡先**

保健管理センター府中キャンパス：(042—367—5548)  
 同 センター小金井キャンパス：(042—388—7171)

**鳥インフルエンザ感染症情報(2006年11月現在)**

関係者の努力にもかかわらず、現在も鳥から人へのH5N1ウィルス感染例が増加しつつあります。特に本年5月、インドネシアでヒト ヒト ヒトと3段階でのH5N1の家族内集団感染が発生して注目されています。現在、H5N1のヒト ヒト感染は感染者と長時間同室で過ごす、感染防止対策を取らずに感染者を看病する、などの感染者との濃厚な接触例に限られています。鳥からにせよ感染者からにせよ一度H5N1が感染すると、従来のインフルエンザとは異なって呼吸器のみでなく全身臓器が障害される極めて重症な疾患です(2006年10月末日までの感染者の死亡率は59%)。従って、以下のH5N1感染地域への旅行は控えることが無難ですが、やむを得ない旅行などに際しては、確実に感染の可能性をなくす必要があります。

- |         |           |             |          |
|---------|-----------|-------------|----------|
| 1. ベトナム | 2. インドネシア | 3. タイ       | 4. 中国    |
| 5. エジプト | 6. トルコ    | 7. アゼルバイジャン | 8. カンボジア |
| 9. イラク  | 10. ジブチ   |             |          |

(WHO 2003-2006年の確定患者数の多い順)

一方、H5N1が人に感染し易いヒト型へ変異する可能性(新型ウィルス出現)が危惧されています。もしヒト型H5N1によるパンデミック(汎世界的流行、WHOのフェーズ6)になると、以下のことが想定されます。この想定はワクチンや抗ウィルス薬の効果を考慮していませんが、これに従えば、本学全構成員7,118人のうち1,179~2,847人が感染し、23~57人の犠牲者が出ることが推測されます。

- ・ 高齢者や乳幼児のみでなく、若年者にも感染する
- ・ 感染率：25~40%
- ・ 死亡率：2%、高ければ15~20%

渡航者のための最新の感染情報は下記のホームページをご覧ください。

**厚生労働省**

(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou04/index.html>)

**国立感染症研究所感染症情報センター**

([http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian\\_influenza/index.html](http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/index.html))

**文部科学省** ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/17/11/05112500.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/17/11/05112500.htm))